

小規模校を存続させる場合の教育環境を充実させる事例として、
ICTを活用した個別指導を行うことにより小規模校のメリットを最大限生かすとともに、
小規模校のデメリットとされる、児童生徒が社会性を涵養する機会や多様な意見に触れる機会の不足を補う
ため、他校の児童生徒とのICTを活用した遠隔地間の合同授業を実施。

【H27年度実施内容】

- ・有識者を含めた推進委員会を設置し、授業の方法について検討・評価。
- ・中学校の理科の授業でICTを活用した遠隔地間の合同授業(同じ実験を行い、意見交換)を実施。

➡ 交流により、小規模校の生徒が多様な意見に触れる機会を確保し、学習意欲の向上につながった

【H28年度上半期実施内容】

- 中学校における取組の充実
 - ・face to faceの交流(農業体験、事前にICTで合同授業)と合わせて実施し、生徒のコミュニケーション力向上を図る。
- 小学校における取組の実施
 - ・小規模校同士の交流活動や合同授業を実施し、多様な意見に触れる機会が少ない小規模校のデメリットを解消する。(これまでに6年生図工(作品紹介)、1年生生活科(アサガオの観察・紹介)等を実施)
 - ・同じ中学校区の小規模校(5年生児童1名)と中規模校とのICTを活用した交流活動や合同授業(算数)を実施し、小規模校の児童が安心して中学校に進学できる環境を確保する。

児童生徒の感想

- ・自分達の学校にはない考え方に触れられて良かった。
- ・相手の様子が十分には分からず、自分の考えも相手にうまく伝わらなかったりするので、実際に会った方が良いと思うところもあった。



伊那市教育委員会・学校のコメント

【成果】

- ・遠隔授業を通じて、小規模校の児童生徒に、多様な意見に触れる機会を設けることができた。
- ・小規模校の児童が抱えていた、大規模校への合流に対する不安感の解消に繋がっている。
- ・教員同士が遠隔授業を通して繋がることにより、小規模校側の教員の指導力の向上が期待できる。

【課題・留意点】

- ・通信環境により映像や音声途切れるため、対処を予め考えておくことが必要。
- ・ICTに強い教員を関係各校に確保することが必要。
- ・落ち着きのない子供は映像を見ていられず、馴染んだ教員の同席がなければ授業が成り立たない。
- ・遠隔では児童生徒の細かい反応を見るのが困難。授業の事前事後も含めた児童生徒への働きかけや授業内容のコーディネートが重要であり、むしろ小規模校側の教員に求められることは多い。
- ・小規模校と大規模校で交流する場合、大規模校側のメリットを明確にすることが必要。
- ・同時に授業を行うためには、学校間において年間授業計画や授業の進度を合わせる必要がある。
- ・より有意義な交流活動のため、直接対面して行う交流活動を併せて実施することが効果的。

伊那市が行う遠隔授業を実施する上で制度上の支障はないが、その効果を上げるためには機器の動作環境を安定させるとともに、運用面での工夫が必要。

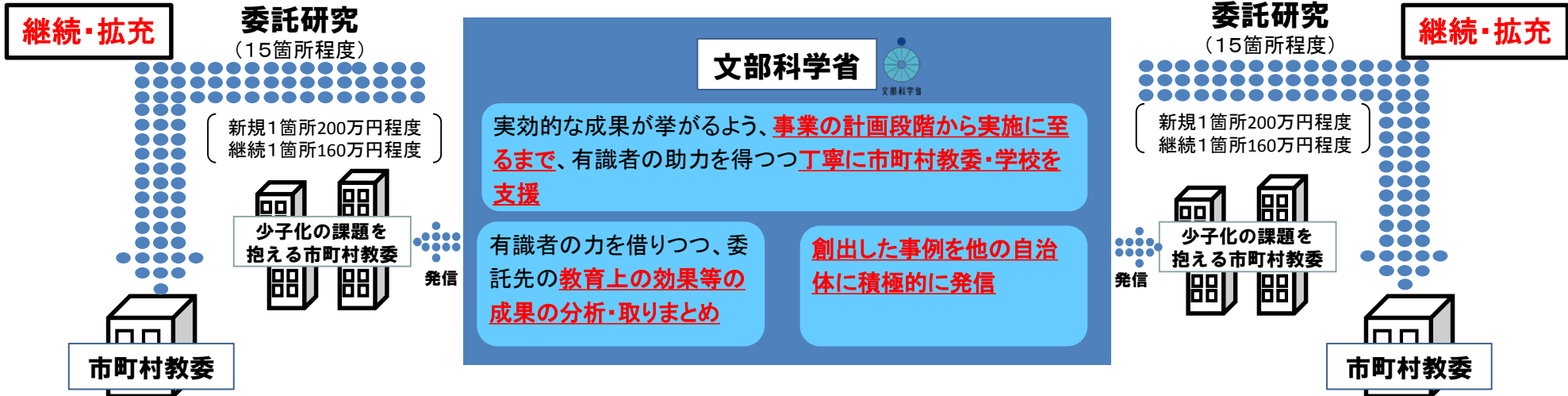
引き続き、ICTの活用等による小規模校の教育環境の充実についての研究を継続。

少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業

①統合による魅力ある学校作り、②統合困難な地域における教育環境の充実についてのモデル創出に向けた市町村への委託研究を実施。(研究開始年度から3年計画でモデル創出。)(H28予算 37百万円(H27予算 27百万円))

少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業

国の積極的な支援のもと、統合による魅力ある学校作りや、統合困難な地域における教育環境の充実の取組モデルを創出
 ⇒**生み出された好事例を文部科学省が積極的に分析・発信し、少子化対応を加速化**



①魅力的な学校統廃合事例

学校統廃合を通じて充実した教育環境の創出を目指す地域において、デメリットを抑えた魅力的な学校統廃合の実現。

【魅力ある学校づくりの方策例】

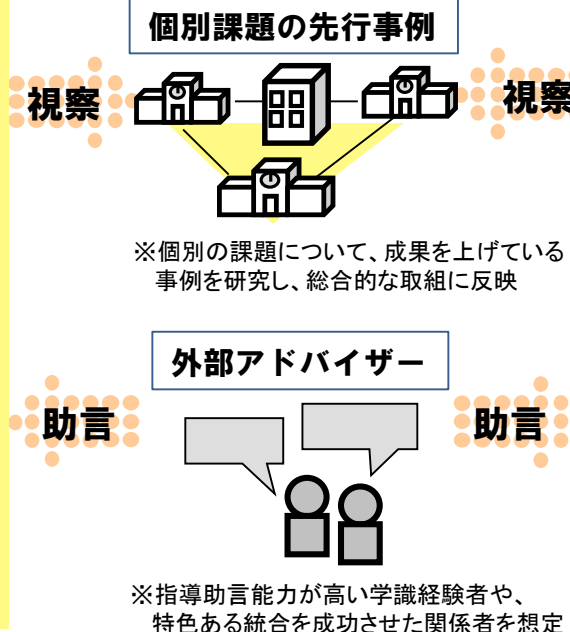
統合対象地域の多様な特色を学び合う**カリキュラム開発**、**コミュニティスクールの効果的な導入**、**社会教育とシームレスにつながった学校教育活動・施設整備**の研究など

社会教育施設

地域住民

【統合により生じる課題への対応方策例】

適切な**通学手段の確保・運用**(スクールバス乗車時間の有効活用、長時間乗車後の脳の活性化方策、スクールバス通学に伴う子供の体力低下への対応)など



②小規模校を存続させる場合の教育環境の充実事例

小規模校を存続させる場合や、休校している学校を再開する場合等に、小規模校のメリットを最大化し、デメリットを最小化する方策を徹底追求。

社会教育施設



地域住民

【メリットの最大化方策の例】

・小規模校の特色を活かし、**全員に基礎学力を保障するカリキュラム・指導方法開発**(※)
 ・**多人数では指導が難しいような教育活動**(外国語の発音、発表など)の**指導の徹底**等

【デメリットの最小化】

・**学習集団の規模や学習内容の多様性を確保**(複数校による相当量の合同教育活動など、社会教育における相当量の教育活動の実施、山村・漁村留学の受け入れなど)(※)

※ICTを活用した教育環境の充実については、主として人口減少社会の学校教育におけるICT活用の実証研究事業で実施。